



随想

ドイツ周遊の旅より

湘南日独協会会員 長峯 誠

1. 成田 9月25日

日独の友好親善活動の一つとして計画された旅行に、幸いにも参加出来たので、記憶とメモと写真を頼りに、以下書かせて頂きます。

初めてのドイツへの旅。しかも9月27日から始まる「ドイツにおける日本年」の開会式などの行事に参加するほか、今年5月16日に姉妹提携したワイマール独日協会への親善訪問などの公的行事があり、緊張しつつ、9月25日成田からJAL407便で出発しました。ツアーのメンバー24名(団長織田正雄氏・協会副会長)と添乗員の江原さん。湘南・千葉・東京・仙台・長野の皆様との旅。長野県日独協会の方たちは、昨年冬の長野オリンピックに来日したチューリングン州応援団との交流ツアーでもあります。11時間の飛行ののち、フランクフルト空港に着陸。乗り継ぎでベルリン空港へ。午後9時過ぎに「ホテルベルリン」に到着し、第1日が終わりました。

2. ベルリン 9月26日

ホテルを9時にバスで出発。第二次大戦時の戦勝国首脳の会談で有名なポツダムへ。広大な森と湖を縫うアウトバーンを走り抜け、旧東西ドイツの国境の町、ブランデンブルグ州都ポツダムに到着。10年前までのソ連軍占領下の傷跡をいまだに色濃く残す住宅地を抜け、湖畔にたつ王政ドイツ最後の皇太子妃チチェリアンの別邸へ。

見掛けはしゃれた館だが百数十室あるというこの建物が、戦後ドイツの処理問題、日本の降伏条件などを討議した舞台。今は、記念館とホテルを兼ね、多くの観光客で賑わがでした。しかし、この会議で原爆投下なども話し合われたなどと考えると、複雑な心境ではありました。

森の中のレストランで昼食。きのこの入ったスープがとても美味しく、雰囲気のある室内と森と湖の景観とあいまって、元気が出てきました。

サン・スーシ宮殿、ベルガモン博物館などを見学。ベルリン市内に戻ると、主要道路は一方通行で、日本年のお祭りパレード一色。大勢のベルリン市民が、団扇を手に手にして楽しそうに見物していました。午後4時にベルリン最高級ホテル「アドロン」で日独協会本部が、私たちのため

※裏面へ

湘南日独協会 2000 年度活動予定

★3月25日(土)午後2時開演

バッハ没後250年「バッハ音楽に親しむ午後」

曲目 ブランデンブルグ協奏曲 第5番

管弦楽組曲 第2番

バッハの名旋律より

会場 鎌倉恩寵教会

★5月20日(土) 講演会(予定)

★7月29日(土) 2000年ドイツフェア

★9月26日(土) 未定

★11月25日(土) 未定

2月の会員懇話会!

湘南日独協会では隔月で会員懇話会を開催しております。あなたも是非ご参加下さい。

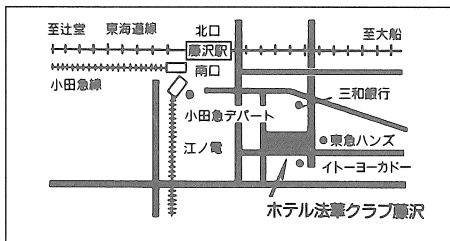
日時 2月26日(土) 午後6時～8時

会場 ホテル法華クラブ藤沢店2F

レストラン「ヴェルデ」ローズルーム

(東急ハンズの向側のビル)TEL0466-27-6101

費用 各自自弁です。



湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL 2・NO. 1. 通巻7. 発行 2000.1.22.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局: 〒251-0055 藤沢市南藤沢8-9中丸ビル2F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

No. 7.

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)



忘年懇話会でゲストのドイツ青年を紹介する遠山理事

湘南日独協会 第7回例会

ドイツ語あれこれ

講演のモチーフ・講師からのメッセージ

長年ドイツ語に親しんでいると、いろいろな面で、日本語との共通点や日本語との違いに気づかされることがある。それらについて、ドイツ語に不慣れな会員の方もおられることに配慮しながら、あれこれおしゃべりしてみたいと思う。

講師 岩崎英二郎氏

(慶応大学名誉教授・湘南日独協会会長)

日時 2000年1月22日(土) 午後2時開演。

会場 ホテル法華クラブ2F ロータスホール

※

にレセプションを開いてくださいました。

会長の樋口廣太郎氏、元ドイツ大使の木村敬三氏、前日独協会常務理事の藤本修氏、ワイマール独日協会副会長鎌田哲男氏などが出席され、なごやかに歓談しました。

夕食後、小雨降る肌寒い市内のブランデンブルグ門特設ステージで、日本のオーケストラ、合唱団などの演奏会を観賞し、盛り沢山の旅行2日目が終わりました。

3. ベルリン・ドレスデン 9月27日

ベルリン市内観光。国会議事堂、東西の壁、地下鉄、新市街地、クーダム通りと市街地改造たけなわのニューベルリンの熱気を眼前に体験。その後日本年開会式参加組とドレスデンへ特急で直行組に別れました。日本年開会式はコンツェルトハウスで秋篠宮殿下夫妻、独連邦大統領、市長が出席して盛会。直行組は、ドレスデンのゼンパーオペラハウスで「魔笛」を観賞し感動。エルベ川沿いの華麗な「ウエスティンベルビューホテル」で深夜全員が無事合流し宿泊しました。

4. ドレスデン 9月28日

工業都市マイセン訪問。マイセン国立磁器工場、美術館見学。18世紀からの、研究、製造、販売で今日の隆盛を究めた歴史が理解出来た気がしました。おもいおもいに買物をすませ、午後ザクセン州都ドレスデンに戻りエルベ川のほとりのツヴィンガー宮殿、美術館などを見学。全長1400Km、ドイツ中央部を貫流する大河の流れと、大戦の空襲で壊滅し、不死鳥のように再建された建造物群の偉容は印象深いものがありました。

夜、ドレスデン市内の劇場で、ドイツにおける日本年の、ジャパンフォークフェスティバルに招待され参加。日本のヴォランティアの方が歌、踊り、茶道、生け花などに大活躍。満員のドレスデン市民が熱心に観賞し、大きな拍手を送っていました。独日市民同志の親善交流の熱気が伝わってきてとても感動しました。終演後ロビーで、ザクセン州独日協会の皆様と交歓しました。

5. ライプチヒ 9月29日

ドレスデンの西北100キロ位のライプチヒへ。ドイツの中心的位置にあり学術・商業都市として有名。ドイツ最古の偉大なライプチヒ大学があり、ここで学んだゲーテはこの街を小さなバリと呼んだといひます。商業と大学といえ、おのずから湧くイメージそのままの町で、大学、旧市庁舎、中央駅、アーケード、多くの書籍店など、誇りたかい都市の気概が伝わって来るような気がしました。ホテル



ポツダム宣言の舞台・ツェツィーリエンホーフ宮殿

は高層のインター・コンチネンタル。快適なホテルでした。

6. ワイマール 9月30日－10月1日

いよいよ憧れのワイマールへ。高速道路が閉鎖されていたり、渋滞だったり。市長さんの面会時間を気にしながら、高速を降りて市内に入りました。今までの町と違い、こじんまりと、美しい低層の建物の連坦する間を縫う一方通行の石畳の道を通って、古式ゆかしい市役所に着きました。

3階の来賓室で、市長さんとワイマール独日協会の副会長の鎌田さん、専務理事のオイルゲンミュラーさんほかの方にお出迎え頂きました。市長さんに鎌倉市長からの親書をお渡しし、スピーチや記帳などの行事のあと、レセプションが開かれ、日独市民の親睦が和やかに行われました。地元の報道関係数社が熱心に取材していました。

夜は市内の公共フォーラムで、市と独日協会が音楽会とパーティーを催してくれました。ベートーベン、シューベルト、モーツァルトなどの歌曲をたっぷり楽しみ、全員でシューベルトの菩提樹を合唱しました。

パーティーで本場のビールとワインで乾杯、湘南・ワイマール両協会の親善の実が上がりました。

この日の午後と翌日の午前中は、今年の欧州文化都市に指定された、あまりにも有名な古都ワイマールの見学。なんといっても、メインはゲーテハウス。膨大な書物の図書室。小さな書斎と寝室。少し歪んできた建物をこれからど

う保存していくのか気になりましたが、中庭のほっとするようなたたずまいに身を置くと、仰ぎみるような存在だったゲーテが、身近に懐かしく思えて来ました。このほかにゲーテの若き親友シラーと並んだ彫像やプロテスタントの教会、市の木の大きな銀杏など秋の気配の森と街路樹の道を楽しく歩き回りました。

7. アイゼナッハ 10月1日

午後、ワイマールを後にしてアイゼナッハへ。長野オリンピックのチューリンゲン応援団に同行して食事を担当した一家の経営する山地のレストランで昼食。長野日独協会の方達がとても仲良く再開を喜び合っていて、微笑ましかったのと、山小屋の雰囲気の中で食事がおいしく、ゆったりとしました。

再びバスに揺られてアイゼナッハへ。高地のヴァルトブルグ城を見学。城中は過去何世紀にもわたる宮廷文化が眼前に。劇場、画廊、聖女伝説の絵画、そして何よりもゲーテが絵を描き、詩作した城郭からの素晴らしい眺望。スケールの大きい、圧倒的な一時でした。

8. エアフルト 10月1日－2日

アイゼナッハからバスで数時間、エアフルトへ。人口20数万のチューリンゲン州都で商業都市。宿泊はスカンジナビア航空経営の高層ビジネスホテル。しかし、ホテル周辺を歩くと、中世の壮麗な建物群あり、しゃれた商店街ありで、翌日にフランクフルトから帰国という日程が後1日あれば残念。ゲーテとナポレオンの会見で有名な宮殿やクレマー橋など見学。長野出身の方の経営するお寿司屋さんで、チューリンゲン州の独日協会の方達と交歓。長野の皆様とご一緒の旅行で、本当に楽しかった。

9. フランクフルト 10月2日

バスでたっぷり3時間以上。フランクフルトに帰って来る。ゲーテ生誕の地。車の渋滞がひどい近代的大都会。昼食、買い物、そしてゲーテの生家を街路から見学。生誕250年の年に、この地に立ったのも何かの因縁かと、感慨深かった。

午後8時50分のJALで成田へ。10月3日午後3時に無事帰国しました。

団長として、親身にお世話頂いた織田副会長はじめ同行の皆様本当にお世話に成りました。また色々配慮頂いたワイマール独日協会の鎌田さん、当協会理事の川本さん、江ノ電ツーリストの藤平さん、江原さんと現地案内の市村さん、皆様ありがとうございました。